地域で輝く女性起業家サロン（第１回）　議事概要

日時：令和７年１月18日（土）14：25～15：25
場所：滋賀県立男女共同参画センター　G-NETしが

【出席者】

浅田　三華子	発酵蔵カフェ　華あそび　代表
岩倉　絹枝	コドモフク　ひよこ屋　代表
熊谷　理美	株式会社dive in LIFE　代表取締役
西原　麻友子	株式会社ベホマル　代表取締役社長
山崎　いずみ	株式会社いと　代表取締役
横田　響子	株式会社コラボラボ　代表取締役
吉岡　佐和子	株式会社山陰合同銀行　代表取締役専務執行役員/鳥取営業本部長
三原　じゅん子	内閣府特命担当大臣（男女共同参画）
友納　理緒	内閣府大臣政務官
岡田　恵子	内閣府男女共同参画局長
黒瀬　敏文	内閣府政策統括官（共生・共助担当）
小八木　大成	内閣府大臣官房審議官（男女共同参画局担当）
原　典久	内閣府大臣官房審議官（男女共同参画局担当）
三日月　大造	滋賀県知事
岸本　織江	滋賀県副知事
林　毅	滋賀県商工観光労働部長

１．開会

２．挨拶

（三原大臣）

・石破内閣では、楽しい日本をつくることに重点を置いている。その中で、若者や女性に選ばれる地方をつくっていくためには何が必要で、今、何をしなければならないかということについて、皆様方の御意見をしっかりと政策に落とし込んでいくことが大切なのだろうと思っている。
・本日は女性起業家の皆様方の、起業するに当たっての壁や喜び、御自身の経験された思いをぜひお聞かせいただいて、私どもの糧にさせていただきたい。
・女性起業家を全力で応援したい。地方に女性がなかなかとどまっていただけない理由の一つに、女性が働きたい仕事がないということがあると思っている。働きたいと思える仕事あるいは職場というものをどうやったら地方につくっていけるのか。ここが鍵なのではないではないかと思っており、皆様の様々な忌憚のない御意見をお聞かせいただけることを楽しみに

している。

（友納政務官）
・政治の世界も女性が十分にいない中ではあるが、政策にしても何にしても、女性の視点は重要。こども・子育て政策等だけでなく、全ての分野において女性の視点で幅広く見なければいけないものはたくさんある。
・起業に関してもこれまで様々な苦労の中で取り組んでくださっていると思うが、皆さんがトップに立っていただくことで、より多様な働き方ができたり、いろいろな広い柔軟な対応ができたりというようにきっと助かっている方もいるだろう。これからは女性により働いていただきたいし、活躍していただきたい。今日は第１回ということで、ぜひ皆さんのそういったこれまでの御経験を踏まえたお話を聞かせていただきたい。

（三日月知事）
・地域で輝く女性起業家サロン、第１回目が滋賀県ということをとてもうれしく光栄に思う。それと同時に、私たちもジェンダーギャップ解消のために様々な取組をしているが、まだまだできていないこともある。女性起業家を応援する取組について、今日いろいろな話をしながら今後の糧を得て、また、力をいただきたいと思っている。

〇起業家の皆様より自己紹介
（浅田氏）
・大学を卒業して彦根市役所に就職し、30年間勤務。こどもの頃から料理が好きで、カフェなどをやってみたいという夢と、生まれ育った場所に大きな蔵があったため、その蔵をうまく活用できないかという思いがあり、彦根市役所を早期退職して、去年の７月にカフェをオープン。
・発酵調味料を使った料理と天然酵母の手作りパンを提供。カフェだけでなく、２階はフリースペースとしてイベントなども開催。心も体もみんなに元気になってもらいたいという思いでやっている。

（岩倉氏）
・元々は土木の会社で勤務。こどもが生後６か月のときに大きい病気で入退院を繰り返すことになり、土木業界でキャリアを続けることはなかなか難しいと思って考えたときに、起業が選択肢になった。経験したことを基に、障害のあるお子さんや病気で入院中のお子さん向けのこども服の販売を始めた。
・ネットショップであるが、最近は発達障害のお子さんが着られる服がないかという要望も多く、そういった方向けの洋服の販売も開始。それが好評で、不登校だったがこの洋服があるおかげで学校に行けるようになったという声もたくさんいただいている。

（熊谷氏）

・滋賀県の長浜市へ５年前に移住したことをきっかけに起業。
・こどもたちを預かり、長浜市の山や川に遊びに行くという事業をやっている。私が育休から復帰したときに、平日は仕事、土日は子育てで、いつ親は休むのだと思ったところから、罪悪感なく預けられる場所が必要だということでつくった。

（西原氏）
・前職は大手電子部品メーカーの研究職を15年間、脱サラをして起業。現在は草津市にある立命館大学の中で環境素材系スタートアップとして活動しており、起業３年目に入ったところ。
・二酸化炭素を吸収するプラスチックというのを作っており、それを作るための素材を作っている環境系スタートアップである。身の回りにたくさんあるプラスチックが二酸化炭素を吸収して、誰でも環境を意識できるような社会をこれからつくっていきたいと思っている。

（山崎氏）
・事業内容はコワーキングスペース、シェアオフィスの運営とエディブルフラワーの生産農業。昨年、長野県にも法人を立ち上げ、そちらはウェブ新聞のメディアの編集長として、現在２拠点でやっている。
・2008年に長野県から滋賀県に引っ越してきてから４年で夫が病気やけがで生死をさまよったり手術をしたりした。そのときに、乳飲み子を３人抱えて雇ってくれるところがないということで、「自分はいつでも社会的弱者という立場になってしまうのではないか」という恐怖を感じたことが起業のきっかけとなった。2012年に県が運営する女性のキャリアセミナーを受講して、2013年に起業しており、県にもとてもお世話になっている。

○先輩起業家、起業のサポートに従事する立場として本サロンに加わっていただいているコアメンバーから挨拶
（吉岡氏）
・山陰合同銀行というのは鳥取県と島根県をまたがっている広域地方銀行であり、そこで今、代表取締役という肩書きもいただいて、任務に邁進している。
・世の中の８割、９割はサラリーマンの女性の方が多いと思うので、そういった観点からもいろいろと御提案ができるのではないかと思っている。

（横田氏）
・20年前に女性社長.netというサイトを立ち上げ、20年近く女性経営者たちの応援もしてきた。
・フルリモートで、どこからでも働けるということを許容できる会社でもある。やはり女性起業家の会社は女性が働きやすい職場づくりをしやすいかと思っている。

３．意見交換
○地域で女性の起業が促進されるためにどのようなサポートが必要か
（浅田氏）

・市役所を辞めてカフェを始めたいと思った際は、飲食店で働いた経験もなく、ただやりたいという気持ちだけで始めた。そのときにまず何をどうしたらいいのだろうという思いで最初に行ったのが、彦根市の男女共同参画センターのチャレンジ相談。まずはそれを一回受けてみようと思い、起業したいがどうしたらよいかと相談した。右も左も分からない状態で始めたが、そこでG-NETの起業セミナーを紹介いただき、起業セミナーを受けに来るようになった。そのセミナーで簡単ではあるが、起業するために必要なことを教えていただき、つながりを持たせていただけたので、そういうきっかけがあったのは今となってはすごく助かったと思っている。
・いろいろやりたい、活動したいと思っている女性はすごくたくさんいるので、どうしたらいいだろうというときに、気軽に相談できる場所があったらとても良いと思う。チャレンジ相談は月１回しかなく、いつもいっぱいで、予約しても１か月先になってしまう。もう少しこまめに、ちょっと聞きたいときに聞けるという場が、市町レベルであったらいいと思う。

（岩倉氏）
・スモールステップを踏める環境づくりを地域でしていただきたい。
・2012年に自分が起業した当初は、こどもの病気入院がきっかけだったため、そういった子育てをしながらの起業となると、なかなか思いどおりにいかないことも多く、最初は夫の扶養に入りながら少しずつ準備をして起業してという時期があった。今ようやく10年以上たち、法人化しようかという検討ができるところまで来たが、逆に言うと、それに10年以上かかってしまった。でも、そういう起業の在り方もあっていいと思う。起業といえばいきなり資金調達、海外展開みたいなイメージではなくて、各ステージに合ったきめ細かい支援をしていただけるとありがたい。
・例えばここG-NETしがでは、起業セミナーを受けたときに託児サービスがついていたが、それがすごくありがたかった。長期的な目線でステージに合わせて支援を提供していただけるとありがたい。

（熊谷氏）
・地方にいると女性起業家に会う機会がとても少ないので、地方でも、女性起業家のロールモデルに出会う機会が多いとうれしい。形は講演でもワークショップでも何でもいい。
・都会へ行きっぱなしではなくて、たまに地方へ戻ってきて、次の女性起業家を育てたいという思いを持っている女性起業家の方もたくさんいるので、そういった機会をつくっていただけると、地方にいる、ここで頑張ろうと思っている人たちにもすごく喜ばれると思うし、私もうれしい。

（西原氏）
・私のようなスタートアップを目指す女性はほとんどいないので、今回は女性の働きやすさというところで３つ提言させていただく。
・１つ目は、こどもの給食。小学校や中学校は長期休暇の夏休みに給食がないため、お弁当を

用意しなければならないというのは実は母親にとって非常に負担が大きい。ぜひ長期休暇、学童に行っている間だけでも給食を国が保障してくれると、非常に母親としては働きやすくなる。給食を出すという提案は、働きやすさのための提案であまり聞いたことがないと思うので、何かしていただけると非常にうれしい。

・２つ目が配偶者控除。目下話題になっているが、起業した方に対しては配偶者控除がなくなる。給料が０円でも、役員報酬が０円でも、起業した途端に配偶者控除を適用できないというのが今の法律上の問題になっており、私も起業してすぐには全く収入がない中で、しまった、何で起業してしまったのだろうと思ってしまったことがある。せめて起業して５年間ぐらいは、配偶者控除を適用できるという制度改革をしていただきたい。

・３つ目は私が事業構想修士を持っており、事業構想科で学んだということを基に考えた事業構想に関する支援。Why、What、Howのうち、起業家は「なぜ」から始めて、原体験を基にした「なぜ」をしっかり持って起業しなさいという考え方があるが、女性の場合、逆に「なぜ」が非常に強くてWhatとHowが弱い。そのため、男性目線の起業家支援をされると非常に頭でっかちな構想になってしまって、なかなか収入が安定しない。逆に女性の場合はWhat、How、どうやって収入を安定して経費を稼ぐのかというところがやはり足りていないと思ったので、そういった具体的な支援があればよいと思う。

（山崎氏）

・本日、このように女性の起業家の現状を知ろうという流れができたことが非常にうれしい。私も今12年目であるが、ようやくスタートラインに立ったという感じがしている。なぜなのかと考えたときに、日本の育児、家事の分担比率のデータを見ても、明らかに現状は女性のほうが多いというのがデータに出ている。女性のスタートアップの場合、私たちが起業して、事業をやって、こどもの世話をしているので、飲み会に行く、情報交換に行く時間はない。もちろん同世代の女性起業家が少ないというのもあるが、あらゆるタスクを担いながらも事業を育てているというところで、どうしても時間がかかってしまうというのはあったと今振り返って思う。ビジネスコンテストにスタートアップで挑戦しようと思っても、５年目にまだ自分が対象になっていると思えない。地方で何かしよう、そういうところに挑戦しようと思うと、「私なんて」と思い終わってしまうという声は非常によく聞くし、私自身もそういうところには挑戦できなかった。

・最近応募したアクセラレータープログラムの最終面談でも、担当の方が「女性のスタートアップは10年かかると言われている」と言っていた。やはり現状、能力の差ではなくて、置かれている生活サイクルの中で、特に子育て中の女性の負担を考えたときに時間がかかるというのがまず大前提にあるのだと。それが本当かどうかというところも含めて情報をたくさん取ってほしいと思う。

・自社もパートのスタッフが９人いて、皆さん子育て中の女性。多い人では６人のこどもを育てながら働いている方もいて、その方たちと一緒に組織をつくっていこうと思ったときに、組織マネジメントやリーダーシップなど、どうしたらよいか全然分からない。学べる場もない。そういったフェーズによって出てくる課題を誰に相談していいか分からない、という課

題は非常に多いと感じる。

（横田氏）

・山崎さんが10年たって今やっとスタートラインとおっしゃっていたことについて、私も今、起業18年目くらいだが、８年前頃からやっと自分が目指していた姿形になり始めて、やりたいことができていると思う。皆さんがおっしゃっていることは基本的にいろいろな側面で重要な指摘をされていたと思う。
・西原さんがおっしゃっていた、男性と女性で起業の考え始め方が違うということについて、まさに、支援する側に女性目線が入っているか、女性の働き方を分かった上でのアドバイスができているか、という点は非常に重要な点だと思う。
・都道府県によって女性の起業支援に対する考え方には結構ばらつきがある。滋賀県は結構熱心なほうかと思うが、これを継続させていくことが重要である。そして支援が整っていない地域はきっちり底上げをする必要があると感じた。
・我々が実際に相談を受けている中で、株式会社化していたとしても、一人企業というのが３割ぐらいいる。一人企業なのでほとんどフリーランスと変わらない状態であっても、やはり扶養控除や育休がない中で闘いながら、さらには家事、仕事もやって、さらには自分の会社を大きくしていかなければいけない、という負担の中でやっているということが大変だと思う。
・日本政策金融公庫の調査で、女性の起業後３年未満のところは男性に比べて赤字の比率が高いが、５年を超えた段階では男性よりも女性のほうが黒字の比率が高いというデータがある。スタート時点での経験や人脈、時間などの壁は高いが、サステーナビリティに会社を継続していくことでしっかりと利益を出していく存在に生まれ変わっていくというところもあるので、スタートして何年かはしっかりとサポートをする体制というのが重要だと考えている。

（吉岡氏）

・浅田さんの気軽に相談できる人や聞けることができる場所がなかったという話から、私どものような地方銀行も、お金に絡むことや事業計画などについて、もっと気軽に御相談いただけるような環境を整えないといけないと思った。スタートアップにベンチャーキャピタル様と一緒に投資などもしているが、なかなか女性の起業家向けのものはなかったので、そういったこともいろいろお話を聞かせてもらいながら、銀行の支援策を考えていきたい。

（三日月知事）

・スモールステップが踏める例の紹介や、フェーズに応じた支援を女性の目線も入れながら行うこと、また、ロールモデルを知れる、もしくはそういった方々と交流できる機会づくりはとても大事だと思う。ぜひ５名の方にもお力添えいただき、滋賀県でもさらにそういう機会をつくっていきたい。

（友納政務官）

・女性起業家の現状把握をやはりしなければいけない。スタートラインに立てるまで10年かかるというのが、本当にそのぐらいかかるのか、やはり男性より長期間かかるのかなども含めて、調査、現状把握をするべきだと感じた。
・起業に関しても、伴走型の相談支援、ロールモデルの提示が必要。
・やはり女性は起業するときの資金の問題が男性よりも多いと思う。例えばそれまで専業主婦をしていたり、昔は働いていたけれども貯金はほぼない中で始めたり、というところがあるので、もしかしたら最初の３年は赤字でその後黒字というのも、最初がマイナスからのスタートでそういうことになるのかもしれない。女性の状況に応じたきめ細やかなサポートというのができていくといいと感じた。

（三原大臣）
・皆さんのお話を聞いて、起業後３年未満の方への支援策も必要なのだという気付きを得た。
・今、起業して、仕事をしていく中で必要なものということで話を伺ったのだと思うが、起業する前に苦労されたこともあれば伺いたい。

（岩倉氏）
・私は普通の会社勤めをしているところから起業したが、会社に勤めている間にも、例えば女性は営業に行かせてもらう機会がない、男性と同等のビジネスをしていく上での経験が積めていないというような、社会での機会損失がある。そこからのスタートとなると、それこそ「領収書って何」というようなところから始めることになる。男性であればおそらくそういった仕事もしていて、営業はこうやってやるんだ、企画書はこうやって書くんだ、企業はこういう構造になっているんだという経験があるところからスタートできるが、女性はスタート時点で出遅れているのだなと思った。

（三原大臣）
・今日拝見したセミナーで会計のことを扱っていたが、そういうところで学んでいったのか。

（岩倉氏）
・体当たりでやってきた。

（山崎氏）
・セミナーで学んだことで大事なことは、同期ができたこと。自分の代はとても元気で、セミナーを受けたのは12年ほど前であるが、まだ半分ぐらいの人は起業している。そのときの創業塾の先生が教えていたのは、どうありたいかという自分の生き方についてであった。そこを最初に考える機会をくれたというのは非常に大事だった。そしてセミナーが終わった後も、同期がいることで、売上げを上げてきたり、争いながらこつこつとやっていたり、ということがあった。同期だけでなく、横田さんがやっているJ300などを通じて、全国各地のそういう思いでやっている女性たちに出会えたことが、また１年頑張ろうというモチベーションに

なって、私はここまで来ることができたと思う。

（西原氏）
・私の場合、逆に企業の中では男性と同じような経験をさせていただいたので、あまりスタートのときに「女性だから」という困りごとは全然なかった。
・ただ、地方というところでは、スタートアップに関する情報がない。スタートアップはどうやって資金調達をするのか、IPOした人はどこにいるのかというような情報はなく、スタートアップ業界に詳しい弁護士、弁理士、税理士などの士業の方もいない。特許庁の方などに聞いても、「滋賀県はスタートアップが少ないから、ものづくり系に行くなら京都や大阪に行ってください」と滋賀県の方に言われるという感じで、自分は今、税理士さんも社労士さんも弁護士も弁理士も全部滋賀県以外の方。それが非常に残念だと思う。そういったことを相談できる方がやはり地方には不足していると感じたところ。

（三原大臣）
・やはり同期しかり、いろいろな意味でネットワークは大事ですね。

〇女性が働きたい地方にしていくために、何をすれば地方が変われるか
（山崎氏）
・こどもを産み育てていきたい、働きもしたいし社会にも出たいという中で、なぜ保育園にこどもを入れる段階で選ばれなくてはいけないのだろう。なぜ全員入れないのだろうということはやはり一番思う。地方でも、職場の復帰が決まっているのにこどもを保育所に入れられない、という現状がある。みんなサボってこどもを預けようとしているわけではないのに、同じ市内に親がいたら優先順位が下がるとか。女性が社会に出て働こう、稼ごう、稼いだお金は絶対子育てや自分たちのためにどんどん使おうと意欲高く進もうとしているのに、こどもがいることでこどもを足かせのようにしてしまう、この仕組みが私はまず非常にもったいないと思う。
・自分のところのスタッフでも、こどもを預けてもっと働きたいと言いながら、今は１時間だけ毎日両親に預かってもらって事務仕事をしに来るというスタッフもいる。働きたいが、自分の今の状況では保育所には絶対に入れられない、ということで諦めて、できる範囲でできることをしている女性がいるという現状がある。

（西原氏）
・弊社は理系、リケジョが働くような場になるので、応募される方もリケジョの方が多いが、その中で、理系の大学を卒業後に一旦就職したものの、子育ての段階で仕事を辞めてキャリアにブランクができてしまい、パートで、理系の仕事をしていないという女性は結構多い。そういう方が地方で働きたいと思っても、「キャリアがないので」と言われてしまう。なかなか働ける場所がない、働いてもいいかなと思える職場がないという話もあったりするので、私自身も、女性が働けるような職場、リケジョが働ける職場、ブランクがあっても働けるよ

うな仕組みというところをもっと自分なりの人事制度でもつくっていきたいと思っている。

（熊谷氏）

・滋賀県の中でもかなり地方、北部のほうに住んでいるからかもしれないが、昔の当たり前であったことをそのまま周りの方に言われるという状況がある。国としてもどうしたらいいか分からないと思うが、当たり前を見直してほしい。例えば、仕事を頑張りたいタイミングで家事代行を頼みたいと思っても、そもそもサービスのエリア外だったり、もし何とか手配できたとしても、「あそこにこういう車が来てた」というような噂が立ったりしてしまう。このときに車がある、ないとか、このナンバープレートがどうだとか、マクドナルドでただ打合せをしているだけなのに「お茶していたね」と言われるなど、全て噂として流れてしまう。起業の準備をしていたのに、そういったことを言われる環境であったことで、起業する直前、直後にはずっとそこから出たいと思っていた。どう変えていったらいいか分からないが、一番私はつらかった。保育士や市役所の方も含め、懇談のときに「お母さんは何をしているのですか」と何回も問われるような時間がつらかったので、女性の起業は普通だよとか、扶養の範囲内にこだわっている女性ばかりではないよ、というところの理解が進めばうれしいと思う。

（岩倉氏）

・女性の課題感を分断しないでほしい。会社員として働くにしても、起業するにしても、「女性がこの社会で働く」ということで、共通している課題感は結構たくさんあると思う。子育てしながら働く、介護しながら働くというのは、勤めていようが事業をしていようが変わらない部分でもある。
・その上で、会社勤めをしている女性特有の課題、起業した女性に対して支援しなければいけない部分というようにフォーカスしなければいけない部分が違ってくることもあるが、子育てや介護は共通の課題であるので、あまり分断せずに考えてほしいと思う。
・具体的に言えば、どの立場であっても必要な情報にアクセスして、必要な支援を受けることができるというように、プロセスをもっと簡単にしてもらいたい。企業で働いているとこちらの窓口、起業しているとこちらの窓口、というようなことがあると情報を得るのも大変。さらに、相談には行ったとしても、その支援を受けるための申請や報告が煩雑だと、何のための支援なのか、と思ってしまう。プロセスが明確でシンプルなシステムをつくっていってほしい。
・支援する側の人材育成も大事。

（浅田氏）

・女性だから、地方だからという観点からは外れるかもしれないが、今困っているのは、確定申告や簿記など、技術的なところ。そのほか、各種申請など、役所は縦割りなので、それぞれ窓口が違うこともある。「起業するためにはこれが必要」というように一元化しているとすごくやりやすいと思う。

（吉岡氏）

・私は起業というよりも、組織で働いているので、女性が働きやすい、働きたいと思える地方にするにはどうしたらいいかということは常々考えている。

・女性の中でも、起業していろいろやっていきたいという方と、組織の中で自分の能力を発揮したいというタイプに分かれるとは思うが、やはり責任のある仕事をするということがやりがいにつながっていくと思う。学生などに、自分が頑張ればこういう道もある、女性も責任のある仕事ができる、ということを広めるためにも、自分が取締役になった意味がある。ただし、銀行の行員だけが活躍しても仕方がなく、地域の起業家や地域の企業に勤める社員、それぞれが介護も育児も両立しながら、やりがいのある生き方、人生をつくってもらうことが一番だと思っている。

・今皆さんから話があったように、企業が女性の声に耳を傾け、その意見を１つずつ改善していく取組を行い、そのうえで社員と一緒に面白い仕事をしていく、という土壌ができれば、県外から地方へ人が帰ってきてくれるのではないか、特に女性が働きやすい、生活しやすいと帰ってきてくれるのではないかと思っている。先日、取引先の女性の社員様だけを集めた情報交流会を開いたところ､好評であった｡そのときに出てきた声を集めたところ地方でも、女性も一緒に悩みごとを相談しながら頑張れる土壌が必要であることに気付いた。今年もそういった会を開き、支援していきたいと思っている。

（横田氏）

・やはり女性起業家はプレッシャーが多いと改めて感じている。事業計画書を書くというのも非常に重要なことだと思う一方､大体５分の４の会社は計画書がなくてもスタートはできる。そういった環境で始めたばかりのときに、「起業したんだ、ビジネスモデルは」などと聞かれるだけで、恥ずかしかったり、プレッシャーに感じたりする。そういうプレッシャーなどを１つずつ減らしていくというのは非常に重要だと改めて感じた。

・狭い地域だと周りの目がプレッシャーになるという話もあったが、そういった意味では地域を越えたつながりも大事だと感じた。周りの目から逃げられる、仕事に集中できる場をつくるというのは重要だと思う。

（三日月知事）

・このやり取りを、例えば高校生や大学生と一緒に聞いたら、また様々な選択肢が彼女、彼らに広がるのだろうと思う。

・山崎さんから話があったような何をやりたいというよりもどうありたいのかということを考える場づくり、頼れる士業の方がいないという点で、知識、経験とともにネットワーク化して紹介するような仕組み、あとやはり保育所の問題、こどもの問題、介護の問題など、主に女性に偏っている課題を足かせにしないサービスの充実等、そういう行政の配慮ももっとしなくてはいけない。

・昔の当たり前は、若者や女性の定着につながらないという事例は私も各所で聞いている。そ

うではないよねという姿をみんなで示していけたらいいと思う。

（友納政務官）
・みなさんの話を、どれもその通りだと思いながら聞いていた。
・家事支援サービスについて、私もすごく重要だと思っているが、日本は利用している家庭がまだすごく少ない。今おっしゃったように「そんな楽をしているのか」という考えからなかなか抜け出せない部分がある。起業する女性だけではなくて、従業員の人のためにも、そういったことへの理解がきちんと進んでいくというのはとても重要だと思う。
・私たちが今できるのは、こういった取組を通じて女性が起業するということがどういうことか、働くとはどういうことかというところの理解を進めていくこと。人のマインドを変えるというのはすごく難しいとは思うが、国として理解を増進していくことで、女性が住みやすい地方をつくっていくというのは重要で、我々の一つの役割かなと思って聞いていた。

（熊谷氏）
・次の女性起業家を生むためというと、学生にロールモデルを見せることが必要だと考えている。発展途上国で夢を聞いたら、医師と学校の先生しか出てこないのと同じように、地方で何になりたいかと聞いたときに、私の小学生１年生の娘の周りのこどもの夢はお嫁さんとコンビニの店員さん、YouTuberの３つくらいだった。選択肢が多くある中で選ぶのは良いが、そもそも身近で見ていないから選べない、という状況に地方は特になりがちだと思うので、そういった機会が小学校、中学校、高校、大学とあるといいと思う。

（山崎氏）
・障害をもつこどもを育てる親御さんで、働きたいという思いはあるけれども、どうしてもお子さんを預けるサービスがなくて、働けないという声も聞く。どんなお子さんをお持ちの方でも働けるといったところも漏れずに入れていただきたい。

（三日月知事）
・今日ここに来て、改めてやらなくてはいけないこと、やりたいと思うことがたくさんできた、今日聞いたことを幾つか咀嚼して、国とも相談しながら、ぜひ滋賀県がその先頭を切っていけるように、誰も相談する人がいないからスタートアップが生まれないという環境にならないようにぜひつくっていきたい。

（友納政務官）
・第１回がここで皆さんからお話を聞く機会になってよかった。

（三原大臣）
・社員の声を聞くというのは、起業家としても、すごく大切なのだろうと思う。
・このサロンの前に、滋賀で働いている女性の声を聞くための会合を行い、大学生や、就職し

てまだ１～２年しかたっていないという若者の方の話も聞かせていただいた。そのときに若いお二方から共通して、古い体質の意識改革ができていない、まだ昭和の時代の感覚の方が職場にいらっしゃるとか、ここを変えてほしい、まだこうなのかなという思い、自分のお父さんやお母さんより上の世代の方たちの意識がこの地域でも変わってほしい、というような意見があった。それはすごく気をつけていかなければいけないことで、大切なことだと私たちも常々思ってはいるが、やはりこうして直接意見をきき、特に若い人にそういう思いをさせているのかと思うと、無意識のこうした意識を変えていくというのは非常に難しいし、時間がかかるのだろうが、やっていかなければならないと改めて考えた。

・ネットワークが非常に重要だということも今日は感じたところ。先ほどのセミナーでも話をしたが、ここのセミナーの中でしっかりネットワークができている。講師の先生もおっしゃっていたように、今学んでいるところでネットワークをつくっている、というようなことが特に重要で、この方々が起業してからもお互いに、業種は違えど思うことは非常に近いので、いろいろ相談をし合って、そして、切磋琢磨していっているという話もあった。そして地元だけではなくて、例えば今の横田さん、吉岡さんであるとか、こうしたネットワークを築けているということが、やはりこれから起業していく方々にも大切なことなのだろうとも思うし、また、横田さん、吉岡さんのようなロールモデルをしっかりと皆様方にお示ししていく、御紹介していくこと、さらにこれからのこどもたちにこうやっていくんだよというような方向性、生き方などもどんどん知っていただくことが大切だということを今日学ばせていただいた。

・第１回目に、滋賀でこうして皆様方にお話を聞けて本当によかった。今回を機に、またこれから全国開催をしていくということにしているが、今日の皆様の御意見はこれからもまたコアメンバーも通じていろいろと御教示いただければと思っている。

４．閉会